

第3章 早期修了プログラムの履修方法・履修管理

本章では、社会人学生の視点に立って、どのようにして早期修了プログラムに入学し、履修に至るかをいくつかの注意点とともに述べる。なお、正確には早期修了プログラムに入学するのではなく、早期修了プログラムを履修するのであるが、この違いも以下で説明する。

● 博士課程への入学と早期修了プログラムの履修

早期修了プログラムは、他の専攻などと独立したコースではなく、各専攻に設けられた制度である。その裏付けは、筑波大学に限らず我が国の各大学院博士課程に設けられた早期修了制度であり、博士前期課程（修士課程）を含めて最短3年間で博士課程を修了できるとする制度である。

それでは、早期修了プログラムの最大の特徴は何だろうか。

通常の早期修了制度では、博士にふさわしい業績等が整ったところで早期修了の審査が行われる。従って、早期修了できるのは、履修の結果そうなったという結果であり、課程への入学前に早期修了の見通しがあるわけではない。これに対して、早期修了プログラムでは、入学前に1年間で修了の見通しが立ち、かつ修了までのプロセスが管理されているということが最大の特徴である。博士課程では、学位取得にあたって学術的業績を必要とするが、このプログラムでは、企業等における業績をもとに学位を取得できることがシステムとして保障されている。また、入学時から修了までのプロセスを管理するのが、早期修了プログラムの達成度評価システムである。

本プログラムは社会人のためのものであるので、志願者は博士後期課程の社会人大学院入試（筑波大学の場合は社会人選抜入試）を受験しなければならない（筑波大学における社会人の定義については、大学院入試の募集要項に記載）。先にも述べたが、社会人選抜入試では、早期修了プログラムという特別なコースがあるのではなく、通常の専攻を志望し、通常为社会人選抜入試を受ける。これに合格してはじめて、早期修了プログラムの履修審査を受けることができる。どのようにして履修審査が行われるかは、合格通知とともに連絡される。

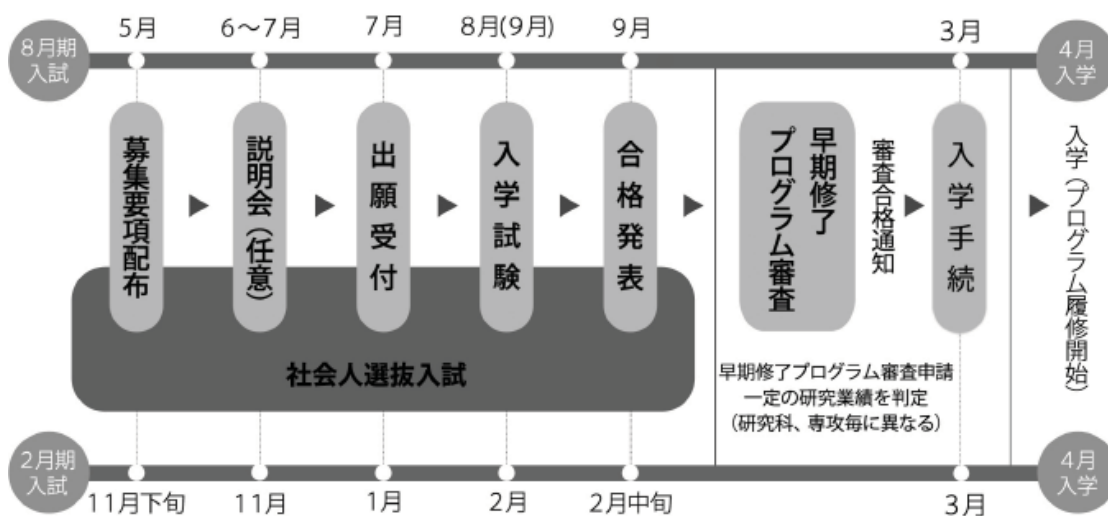


図4 早期修了プログラム入学までの流れ

● 早期修了プログラム履修審査

早期修了プログラム履修審査を受けるためには、以下に示すいくつかの書類が必要である。

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績目録と論文の別刷あるいはコピー
- (3) 博士論文の構想
- (4) 達成度自己評価書

このうち、(4) が最も特徴のある書類で、これらに基づいて、入学前達成度評価が行われる。

ここでいう達成度評価とは、次に示す達成度評価項目にもとづいて、志望者が博士のレベルに到達しているかどうか自己評価を行い、達成度評価委員会がその自己評価とエビデンスによって各項目を評価する方式である。前節でも述べたが、次に示す8項目によって達成度評価が行われてきた。

① 専門基礎	入学者の専門分野について、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。
② 関連分野基礎	専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。
③ 現実問題の知識	現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか。
④ 広い視野	博士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか。

⑤ 問題設定から解決まで	専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか。
⑥ プレゼン・コミュニケーション能力	博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか。
⑦ 国際的通用性	専門分野において国際的に通用する学識を備えているか。
⑧ 学術的成果	博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか。

実際に記入した例は前節に示してあるのでここでは省略するが、1年で学位を取得しようとする人ならば、学術的成果のみならず実務経験のなかで、博士課程に在学した場合に劣らない達成度を各項目について有しているであろう。従って、具体的な業務内容、実務における従事時間、報告書などの成果を挙げながら詳述すべきである。また、最も重要なのは「学術的成果」であり、具体的には論文数とその内容である。必要とされる論文数については、別紙一覧表のように、明示している専攻も多い。しかしながら注意すべきは、必要とされる論文数を超えているから十分であるということはなく、論文の内容が評価されるということである。たとえば、昔出した論文などは、出した時点での成果ではあるが、現在は成果とはみなされないこともある。

これらの書類作成にはある程度の時間を必要とする。また、書き方に迷うこともある。各専攻の早期修了プログラム web ページにも詳しい説明があるが、その他に、各専攻に相談窓口が用意されているので、遠慮なく相談することができる。2月の入試を受けた場合、合格通知から履修審査までの時間があまりないことも考慮しておかなければならない。

履修審査は、書類審査だけのこともあり、入学試験における口頭試験とは別の面接を行うこともある。この履修審査に合格すれば、早期修了プログラム履修生として、各専攻に入学することになる。ここでもし、不幸にして履修審査に不合格になった場合、志望生には2つの選択肢がある。1つは、入学を辞退し、履修審査に合格できるであろう他日を期して、業績と達成度を上げることである。この場合は、入学金を支払う必要がないように、審査期日が設定されている。2つめは、早期修了プログラム履修生としてではなく、通常の博士課程学生として標準3年間の履修を心がけて入学する方法である。その場合は、早期修了プログラム履修生ではない通常の学生と同様の扱いとなる。

● 早期修了プログラムの履修と課程修了

以下では、早期修了プログラムの履修が許可された後、入学から修了までのプロセスについて述べる。入学者は、修了までに3つのチェックポイント、すなわち、中間審査、予備審査、本審査（発表会と最終試験）を経ることになる。

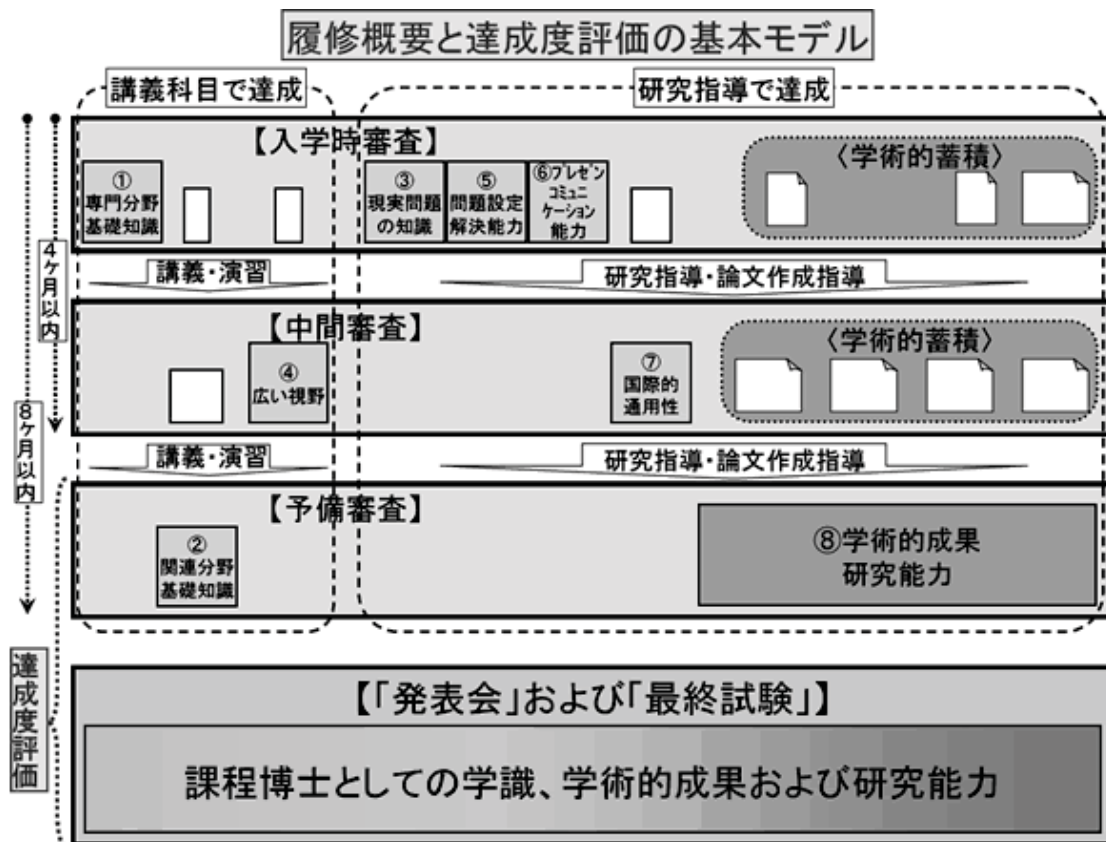


図5 達成度評価の基本モデル

中間審査

入学後4ヶ月以内に中間審査としての達成度評価が行われる。このときは、主に入学後の学修が順調に進み、予備審査の準備が期限内にできるかがみられる。達成度評価委員会等による面接の形式をとることが多い。プログラム履修者は、中間審査時点での達成度自己評価書を作成し、どのような講義・演習を受けているか、研究指導の進展はどのようなものであるかを示さなければならない。

予備審査

入学後8ヶ月以内に行われることが多く、達成度評価とともに学位論文の予備審査を行う。この時点では、すべての達成度項目について博士にふさわしい到達レベルになっている必要がある。また、予備審査に合格することによって、学位論文の執筆にとりかかることができる。従って、予備審査の合格が課程修了のために最も重要なマイルストーンである。

公開発表と最終試験

本論文が完成し、提出した後、公開発表と最終試験が行われる。この際、達成度に関

する最終確認を行うが、予備審査において既に博士にふさわしいレベルに到達しているため、通常は簡単な確認にとどめるのみで済む場合が多い。

図5は達成度評価の基本モデルの一例を示している。この例では、各項目の達成度が博士レベルになったことを文字入りの実線ボックスで表している。よって、入学前審査では、項目①、③、⑤、⑥は博士レベルと認定されたが、他の項目は認定されなかった。中間審査の時点で、新たに④、⑦の項目が博士レベルと認定され、予備審査の段階で残りの②、⑧が認定され、すべての達成度項目が博士レベルとなり、本論文の作成に入った。そして、公開発表と最終試験を経て、博士の学位の取得に至ったことが示されている。この間、各専攻において規定されている博士後期課程修了に必要な単位を取得していることはいうまでもない。

このように、順調にいけばおよそ三ヶ月毎の審査を経て、博士の学位を取得することができるが、仕事の都合などで論文執筆が遅れ、一年を超える場合もあると思われる。その場合でも、早期修了プログラム履修生であることには変わりがなく、審査の期日が次の博士取得の機会にずれこむということになる。

本章では、早期修了プログラムへの志望、入学から学位取得までの道筋を、達成度評価を中心に述べた。実際の履修にあたっては、専攻および個々の研究分野の状況や、履修生の環境に依存する事情も多い。早期修了プログラムの履修を志す社会人は、心当たりの専攻に直接相談されたい。また最後に、各研究科・専攻において授与される学位一覧を付表として示しておくので、参考にされたい。

早期修了プログラムに係る取得可能学位

研究科	専攻	学位
ビジネス科学研究科	企業科学専攻	博士（経営学） 博士（システムズ・マネジメント） 博士（法学）
数理物質科学研究科	数学専攻	博士（理学） 博士（数学）
	物理学専攻	博士（理学） 博士（物理学）
	化学専攻	博士（理学） 博士（化学）
	物質創成先端科学専攻	博士（理学） 博士（物理学） 博士（化学） 博士（工学）
	電子・物理工学専攻	博士（工学）
	物性・分子工学専攻	博士（工学）
	物質・材料工学専攻	博士（工学）
システム情報工学研究科	社会システム・マネジメント専攻	博士（社会経済） 博士（社会工学） 博士（工学） 博士（マネジメント）
	リスク工学専攻	博士（社会工学） 博士（工学）
	コンピュータサイエンス専攻	博士（工学）
	知能機能システム専攻	博士（工学）
	構造エネルギー工学専攻	博士（工学）
生命環境科学研究科	構造生物科学専攻	博士（理学） 博士（生物科学）
	情報生物科学専攻	博士（理学） 博士（生物科学）
	生命産業科学専攻	博士（農学） 博士（生物科学） 博士（生物工学） 博士（学術）

※全て博士後期課程